

会 議 録

1 会議名

令和7年度第3回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

- ・板倉区高齢者アンケート（案）について
- ・地域フォーラムについて

○その他（公開）

3 開催日時

令和7年7月22日（火）午後6時00分から午後6時40分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 市民活動室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員：小林会長、植木副会長、秋山委員、新井委員、小川委員、釜田委員、
小林委員、清水委員、庄山委員、中澤委員、深石委員、藤原委員、南
委員、山本委員
- ・事務局：板倉区総合事務所 宮下所長、小林次長、名倉次長、高橋建設グルー
プ長、佐藤産業グループ長、長谷川市民生活・福祉グループ長、丸山
教育・文化グループ長、千葉地域振興班長、宮澤主事

8 発言の内容（要旨）

【小林次長】

- ・会議の開会を宣言

【小林会長】

- ・挨拶

【小林会長】

- ・条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。会議の成立を報告。
- ・会議録の確認を南委員に依頼。

では、3 自主的な審議（1）「板倉区高齢者アンケート（案）について」、事務局から説明をお願いします。

【千葉地域振興班長】

健康福祉部会が作成した高齢者アンケートの案について、前回、委員の皆さんから様々なご意見をいただいた。それを踏まえて健康福祉部会で改めて話し合いをされ、修正いただいたものが資料1である。

【小林会長】

修正点を中心に、釜田座長から説明をお願いしたい。

【釜田委員（健康福祉部座長）】

- ・資料1に基づき説明

まず、送付文中にある人口を直近のものにした。一般的に高齢者は65歳以上だが老人クラブへの加入は60歳からが多いことから、アンケートの対象については60歳以上とした、という説明を加えた。代表者用のアンケートについては、防災と地域の茶の間の箇所をカットした。個人用についても防災関係をカットしたほか、調査項目を一部変更し文言の整理を行った。

【小林会長】

意見や質問はあるか。

【秋山委員】

アンケート依頼者数の資料の中で、桜ヶ丘町内会の人数が入っていないのはどういことか。

【釜田委員】

上越市の統計資料から抜粋したが、その中に桜ヶ丘がなかったため、周辺の稲増、青葉、緑ヶ丘あたりを参考に人数を推定した。

【山本委員】

黒丸が付いているのはどういう意味か。

【釜田委員】

黒丸は、上越市の人口統計には町名が入っているが、町内会としては存在しないところに付している。

【山本委員】

熊川新田は米増と一緒にの地域で活動しているので、今回のアンケートも対象から外さないでほしい。

【釜田委員】

表の左側の町名は人口統計用であって、右側の町内会名が実際にある町内会の名称である。熊川新田を対象外にしているわけではない。

【小林会長】

この内容でアンケートを実施するということで、部会の方で進めていただくようお願いしたい。詳細や進め方等については、事務局とよく相談してほしい。

【釜田委員】

訂正する箇所があるかもしれないが、一応了解をいただいたということで、事務局に相談しながら進めていきたい。

【小林会長】

集約結果については、いろいろ課題が見えてきた段階で、共有化を図る意味でこの会議の中で提案をしていただきたい。

【釜田委員】

前回の会議の中で、2回に分けてアンケートを実施した方がいいとの意見もあったが、もしこの場でご意見があればお聞かせ願いたい。

【小林会長】

特にご意見がなければ、部会での考え方で進めていただきたいと思います。

では、次に（２）地域フォーラムについて、事務局から説明をお願いする。

【小林次長】

- ・資料２に基づき説明

このフォーラムは地域協議会が主催という形で、上越市創造行政研究所の協力により実施する。地域協議会委員の皆さんにも研修の一環として出席いただきたい。上越創造行政研究所の所長の基調講演の後、創造行政研究所で作成する板倉区に特化した将来の人口予測、板倉区の町内会長に行ったアンケートなどにより分析した結果を説明することとしている。

また、「ワークショップの参加者」とは、このフォーラムをキックオフイベントとし、市民の方からまちづくりについて考えていただく少人数のワークショップの参加者からも、フォーラムに参加してもらうことを想定している。フォーラムとワークショップは一つの繋がりでもあるので、ご承知おきいただきたい。

周知方法としては、8月号の区だよりに掲載するほか、町内会、地域団体については、個別にファクシミリ等でお知らせしたい。また、皆様からも周囲にお声掛けいただきたい。

【小林会長】

意見、質問はあるか。

【庄山委員】

町内会からのアンケートは、すでに終わっているのか。

【小林次長】

先ほどの議題の高齢者アンケートとは別のもので、上越市創造行政研究所が人口分析のために6地区の代表者に行ったアンケートのことで、実施済みである。

【小林会長】

地域フォーラムについては、8月19日火曜日、全員出席ということになるので、ご協力をお願いしたい。

以上で議題は全て終了となるが、事務局から何かあるか。

【佐藤産業グループ長】

第1回板倉区地域協議会で質問があり、後日回答することになっていた光ヶ原高原キャンプ場について回答させていただく。

まず、PRや宣伝方法について。キャンプ場の運営を行っている光ヶ原高原ファ

ンクラブの事務局である板倉まちづくり振興会のホームページに、光ヶ原高原キャンプ場の情報と合わせて、光ヶ原高原の四季の動画が8本アップされている。また、上越観光ナビのホームページにおいて、板倉区総合事務所のページ内に光ヶ原高原の情報と合わせて、キャンプ場に関する情報を掲載している。また、板倉区だより7月号の一面に、光ヶ原高原キャンプ場の案内記事を掲載した。

次に、光ヶ原高原キャンプ場に電気が通じなくなり、トイレなども真っ暗では誰もキャンプ場に来ないのではないかというご意見について。先般、担当者、板倉まちづくり振興会の市村理事長とともに、光ヶ原高原の現在の電気の状態を確認した。トイレは蛍光灯の明かりがつく状態で、通電中であることを確認できた。ただ、今後不具合がある場合は、総合事務所へ相談していただきたい旨を光ヶ原高原ファンクラブへお話しした。

本日、光ヶ原高原ファンクラブ主催の高原祭のチラシを配付させていただいたが、このイベントは地域独自の予算事業の補助金を活用して開催される事業である。

【宮下所長】

上越市の渇水、高温対策について説明させていただく。

6月中からほとんど雨が降らず非常に気温が高い状況が続いている。また、4月に城山浄水場の水源である県営水力発電所の水の管が波断し、水が供給できない状況のため、正善寺ダムに頼らざるを得ない状況だが、ダムの貯水率が今日現在でも27%まで落ち込んでいる。毎日1%ずつ貯水率が減るので、まとまった降雨がなければダムの水が枯渇する。そのため先週15日に渇水対策本部が立ち上がった。すでに防災行政無線でも放送しているが、引続き節水のお願いをする予定。簡易水道のある寺野地区と筒方地区は、今のところ節水の要請は出ていない。本当に深刻な状況になると、断水ということにもなりかねない。皆さんの小さな節水が大きな力になるので、ご協力をお願いしたい。

また、飲料水や生活用水だけでなく、農作物にも影響が出ている。現在、予約制で、消雪用の井戸を給水できるようにしている。板倉区の近隣では清里区菅原地区にもある。また、各種相談、補助制度なども用意し、板倉区総合事務所で受付をし

ているので、早めにご相談いただきたい。

【宮下所長】

次に、廃校となった小学校のサウンディング調査について情報提供をさせていただく。板倉区では、旧宮島小学校、旧山部小学校、旧寺野小学校、この3施設について民間の調査を行い、現地見学も行った。企業の情報もあるので詳細は控えるが、旧宮島小学校については3つの事業体からそれぞれ、農業関連の施設、環境関連の施設、食品生産工場やコミュニティ施設、に使用したいとの提案があった。今後、こうした提案について市で検討し、対応をまとめていきたい。他の2校については提案がなかったという状況である。

【千葉地域振興班長】

8月は、地域フォーラムがあるため地域協議会は今のところ開催しない。9月は第4火曜日が祝日のため、翌週の30日火曜日としたい。

【小林会長】

質問はあるか。

【庄山委員】

節水の話だが、板倉の住民にとって正善寺ダムは関係ないという認識だと思うので、理解を得るような活動を市で何か考えているか。

【宮下所長】

基本的にはガス水道局で対応する形になるが、広報8月号の配布に合わせて、節水の協力要請地域全世帯にチラシを配布すると聞いている。総合事務所としても、ガス水道局に協力する形で、防災行政無線で節水の呼びかけを行っていきたい。

【庄山委員】

板倉区の人、正善寺ダムの水を使用しているという認識はないと思うので、そのことに気を付けて節水を周知してもらいたい。

【宮下所長】

確かに板倉区の住民にはそういう認識がないので、ご意見はガス水道局に伝えておく。

【中澤委員】

委員の皆さんへ情報提供させていただく。今、配付した資料は、有恒高校の1年生が地域に対する課題の探求という授業の中で、1年かけて地域のことを調べたり、地域活性化について考えたり、個人やチームで研究してきたテーマの一覧である。7月17日に発表会があり、講師役として携わってきた私と元地域おこし協力隊の福井さんが参加した。中身の濃い踏み込んだ提言もあり非常に感動した。高校生でも地域のことを真剣に考えている。地域フォーラムなどで発表の場があればいいと思う。

【清水委員】

今、中学生が防災行政無線の放送をしているが、非常に耳にスッと入ってくる。節水のお願いや一般的なPRで、是非とも中学生からどんどん放送してもらいたい。

【小林次長】

7月上旬、板倉中学校生徒の職場体験の一環で総合事務所でも受け入れをした。防災行政無線の放送も携わってもらった。中学生が原稿を読む練習をし納得できるまで何度も録音した結果だと聞いている。中学校にも伝えるが、ご意見として頂戴する。

【釜田委員】

先ほど地域フォーラムの説明があったが、健康福祉部のアンケートについては、これに関係なく、独自で説明会などを行うということによろしいか。

【小林会長】

地域フォーラムとは切り離れた形で考えていただいて結構だが、ワークショップの中で健康福祉に関係する部分が出てくる可能性もあるので、アンケートにも関連性がある場合は共有していきたい。

他にご意見がなければ、以上で会議を終了する。

【植木副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【小林次長】

これで、第3回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255－78－2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。